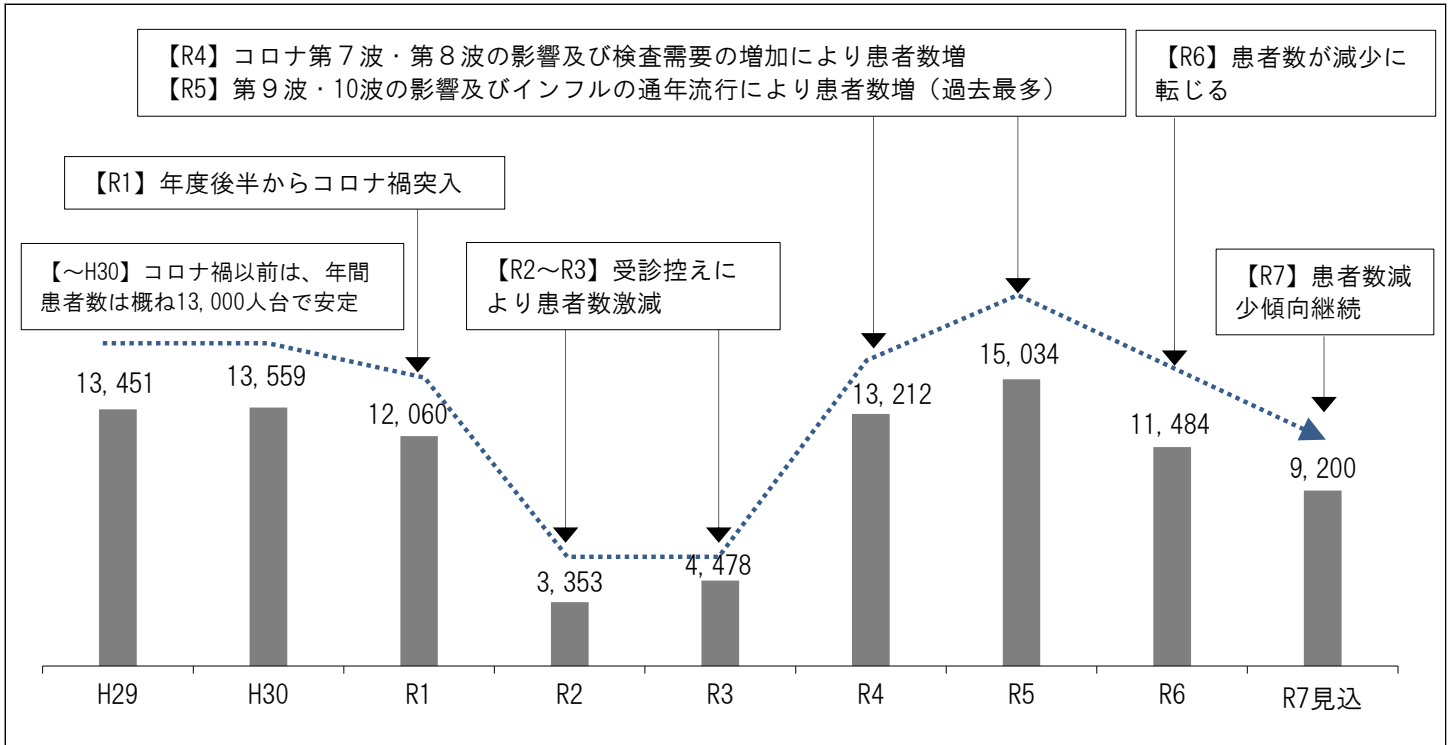


休日・平日夜間急病診療所の患者数と経営状況について

1 患者数の推移

- 患者数はコロナ禍以前は安定的であったが、コロナ禍以降は変動が大きい状況が続く。
- 令和5年度は過去最多患者数、令和6年度は令和2年度・3年度の特異な年度を除き近年最少人数。
- 令和7年度も減少傾向が続いており、令和6年度を更に下回る見込み。



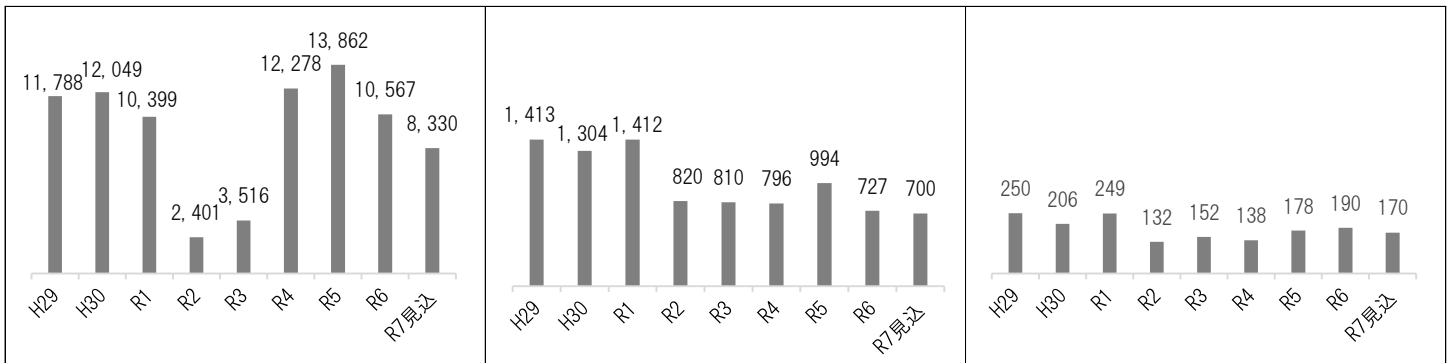
2 診療科目別の患者数の推移

- 内科・小児科は感染症流行の影響を大きく受ける。令和6年度以降は減少傾向。
- 外科及び歯科はコロナ禍以降（令和2年度以降）減少している（外科は令和6年度から日祝夜間の診療を廃止した）。

（内科・小児科患者数）

（外科患者数）

（歯科患者数）



	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7見込
患者数合計	13,451	13,559	12,060	3,353	4,478	13,212	15,034	11,484	9,200
内科・小児科	11,788	12,049	10,399	2,401	3,516	12,278	13,862	10,567	8,330
1日あたりの患者数(日祝)	119.3	125.5	104.7	24.6	37.0	120.3	135.7	108.9	86.0
1日あたりの患者数(土)	28.0	26.6	21.2	5.1	7.8	31.2	35.4	23.5	19.0
1日あたりの患者数(平日)	7.9	7.0	5.8	1.6	2.0	8.9	9.5	6.4	5.0
外科	1,413	1,304	1,412	820	810	796	994	727	700
1日あたりの患者数(日祝)	19.9	18.1	18.6	11.5	11.4	11.2	13.8	10.1	9.7
歯科	250	206	249	132	152	138	178	190	170
1日あたりの患者数(日祝)	3.5	2.9	3.3	1.9	2.1	1.9	2.5	2.6	2.4

3 収支状況

- 令和2年度・3年度は受診控えによる患者数減により診療収入が大幅に減少。
- 令和4年度・5年度はコロナの影響により診療収入が大幅に増加（内科・小児科）。
- 令和6年度は患者数減により診療収入が減少、令和7年度は更に減少する見込み。一方、経費は人件費（固定的経費）の占める割合が高いため、大きな変動はない。

(千円)

【全 体】	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7見込
診療収入	117,236	123,947	103,692	27,650	45,481	239,263	205,653	115,839	94,940
経費	180,025	189,853	183,299	169,171	171,802	209,705	218,933	195,606	184,562
収支差額（指定管理料の額）	▲ 62,789	▲ 65,906	▲ 79,607	▲ 141,521	▲ 126,321	29,558	▲ 13,280	▲ 79,767	▲ 89,622

(千円)

【内科・小児科】	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7見込
診療収入	100,757	108,930	87,232	18,188	35,968	230,003	194,045	106,888	86,421
経費	153,498	163,022	154,313	142,959	145,062	183,051	191,853	177,338	166,808
収支差額（指定管理料の額）	▲ 52,741	▲ 54,092	▲ 67,081	▲ 124,771	▲ 109,094	46,952	2,192	▲ 70,450	▲ 80,387

(千円)

【外 科】	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7見込
診療収入	14,554	13,431	14,543	8,446	8,343	8,198	10,238	7,488	7,210
経費	20,956	21,020	22,457	20,575	20,979	20,657	21,277	12,242	11,880
収支差額（指定管理料の額）	▲ 6,402	▲ 7,589	▲ 7,914	▲ 12,129	▲ 12,636	▲ 12,459	▲ 11,039	▲ 4,754	▲ 4,670

(千円)

【歯 科】	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7見込
診療収入	1,925	1,586	1,917	1,016	1,170	1,062	1,370	1,463	1,309
経費	5,571	5,811	6,529	5,637	5,761	5,997	5,803	6,026	5,874
収支差額（指定管理料の額）	▲ 3,646	▲ 4,225	▲ 4,612	▲ 4,621	▲ 4,591	▲ 4,935	▲ 4,433	▲ 4,563	▲ 4,565

4 市の財政状況

(資料3参照)

5 今後の方向性

- 患者数が減少傾向にあり収支の悪化が予想されるなか、持続可能な診療所の運営のため、今後も継続的な検討が必要。
- 市の財政状況や近隣市町村の急病診療体制も考慮し、セーフティネットの役割を維持しながら適切な運営体制を構築していく。

【参考：令和5年度第1回救急医療対策会議での決議事項】

～休日・平日夜間急病診療所の運営体制について～

内科・小児科の平日夜間の体制	現行の体制（医師2人体制）を継続する。
外科の体制（日曜日・祝休日・年末年始）	一部体制を縮小する（夜間診療の廃止）。
歯科の体制（日曜日・祝休日・年末年始）	現行の体制を維持しつつ、健診実施などによる施設の有効利用を検討する。また、市民に対し急病診療所の歯科診療体制について一層の周知を図る。
その他の事項	収支改善を含め、持続可能な診療所の体制を継続的に検討する。